



## リウマチセンターが充実！

### 早期発見、早期治療を目指し

当院では、2026年4月よりリウマチセンターの診療体制をさらに充実させました。リウマチセンター長である原田院長のもと、新たにリウマチ膠原病内科部長として都留医師を迎え、より専門的で継続的な診療を提供できる体制を整えています。リウマチは長期にわたり治療を継続する必要がある疾患であり、患者さんの年齢や生活環境の変化に応じた支援も大切です。今後は、外来診療だけでなく、通院が難しくなった患者さんへの在宅医療との連携も視野に入れ、地域で安心して治療を続けられる体制づくりを進めていきます。

近隣の医療機関とも連携しながら、リウマチ診療における地域の受け皿としての役割を果たしてまいります。関節の痛みやこわばりなど、気になる症状がある方は、お気軽にご相談ください。

### 院長挨拶

令和8年度診療報酬改定では「地域医療の継続」「高齢者医療への対応」「多職種連携」がより重視される流れとなっています。八木病院では、急性期から回復期・在宅支援まで切れ目のない医療体制の充実を進めています。特に本年度はリウマチ診療のさらなる専門性向上を重点方針の一つといたします。

当院では専門医による精密評価、整形外科・リハビリテーション科との連携を強化し、『痛みを取る医療』にとどまらず『生活を守る医療』を実践してまいります。今後も地域に根差した医療機関として、誠実で質の高い医療を提供してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

院長 原田 洋

# 八木病院防災アクションデー

## ～全職種で取り組む防災強化～

近年、地震や豪雨などの自然災害が各地で発生しています。八木病院では2026年2月19日、「八木病院防災アクションデー」を開催しました。災害時にも地域の皆様へ医療を継続して提供できるよう、身近にあるものを利用して「日常を継続できること」をテーマに職種を超えた実践的な訓練を行いました。

### ○簡易トイレの作成訓練

当院では感染症を予防し体調悪化防止につながることから、災害時の「排せつ」を適切に管理する事が、命を守るうえで非常に重要だと考えています。訓練では、いつも使用しているトイレと「新聞紙」、「ビニール袋」等を併せた活用方法を提案しました

#### 参加者の感想

- 新聞紙だけで、こんなにしっかりと吸収できることに驚いた。
- いざという時に指導が出来るよう実際に体験出来て良かった。

### ○エマージェンシーシートの活用方法

身体を包む以外の多様な使用方法を実際に展開。

#### 参加者の感想

- 防寒対策が役に立った。



### 搬送訓練

毛布やシーツを利用した緊急時の搬送訓練です。主に火災時に行う搬送方法で夜間帯など、マンパワーが足りない状況下でも、多くの患者を救うには有効な搬送方法

#### 参加者の感想

- 重い人でもシーツで運べた。
- 寝たきりの人を床におろすのは大変そうだった。

### まとめ

参加者職員の声には、「楽しかった」「実際に活用できる内容なのでとても良かった。」「普段考えないことを考える機会になった。」など今回の防災アクションデーを通じて職員一人ひとりが「自分にできること」を改めて確認する機会となりました。八木病院では災害時にも医療を止めない体制づくりに継続して取り組んで参ります。

### ○防災食の試食

メニューはカレーライス。白飯、カレーは5年保存可能。白飯は熱湯で15分、水で60分で戻したものを試食しました。

#### 参加者の感想

- 水と熱湯で戻した白米それぞれ食べ比べてみたがどちらも美味しい。
- 災害時でも出来るだけ暖かい食事を提供することの大切さを再認識した。

災害時こそその思いやり!

# 令和8年度 新任者ご挨拶



内科部長 都留 智己

## 専門

膠原病・リウマチ学

## 資格

昭和63年九州大学卒・第一内科。  
九州大学医学部附属病院、山口赤十字病院内科副部長・検査部長、筑豊労災病院第6内科部長、医療法人相生会博多駅東クリニック院長、医療法人相生会ピーエスクリニック副院長を経て、現職。  
令和元年4月～九州大学病院別府病院 内科 臨床指導教授

このたび八木病院に着任いたしました都留智己です。専門はリウマチ・膠原病診療です。

私はこれまで、『医学と医療は違う』という考えのもと診療を行ってまいりました。科学的根拠に基づく正確な診断は当然の責務ですが、それを患者様一人ひとりの価値観や人生観に寄り添いながら提供することが、本当の医療であると考えています。関節リウマチは長期にわたり向き合う疾患です。薬物療法の進歩を適切に活用しながら、副作用管理や合併症対策を含めた総合的なマネジメントを行い、生活機能の維持・向上を目指します。また治療経過が長いこともあって様々な合併症（肺炎、脳卒中、心筋梗塞、癌など）が生じることがあります。医療器材やシステム上対応の難しい場合は九州大学病院や九州医療センターなど高次医療機関へご紹介させていただくこともあります。

対話を大切に、納得していただける医療を提供できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



麻酔科部長 岩永 修

## 専門

手術麻酔、ペインクリニック、集中治療、感染管理

## 略歴

平成2年長崎大学医学部卒  
以後関連病院勤務（長崎大学病院、市立八幡病院、佐世保市総合医療センター、長崎労災病院、浜松医療センター、長崎記念病院）  
平成20年4月～平成29年3月八木厚生会八木病院勤務  
平成29年4月～令和8年3月庄正会蜂須賀病院勤務  
令和8年4月より八木厚生会八木病院勤務

この度、縁あって9年ぶりに当院へ復帰いたしました、麻酔科の岩永修です。かつて共に働いた懐かしい方々、そして地域の皆様と再びお会いできることを心より嬉しく思っております。

麻酔科医の大きな役割は、手術中の患者様の痛みを取り除き、安全を守り抜くことです。改めて医療の現場に身を置く重みを実感しております。これからは手術麻酔のみならず、病棟管理や外来診療にも全力で取り組み、患者様の全身状態をきめ細やかにサポートしていきたいと考えております。

「ここに戻ってきてよかった」と思っていただけのように、一人ひとりの不安に寄り添い、安心をお届けできるよう努めてまいります。以前の経験と新たな研鑽を融合させ、当院の医療に貢献していく所存です。

至らぬ点もあるかと存じますが、精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## ペインクリニック外来を担当します。

腰痛、首・肩の痛み、術後の痛み、神経痛手足のしびれなど、慢性的な痛みや日常生活に支障のある痛みでお困りの患者様を対象に、診察のうえ、症状に応じて治療方針をご提案いたします。お気軽にご相談ください。

※ 外来受付またはお電話にてお問い合わせください。



看護部長 野口 まり子

看護部長に就任致しました野口まり子と申します。ご挨拶の機会を頂戴致しまして感謝申し上げます。さて、医療DXが推進されます世の中におきまして、看護師の役割には大きいものがございます。豊かな感性をもち「心の看護」を提供することは、当看護部の理念でございます。地域の皆様から信頼を頂き、地域医療は貢献できますよう、看護部一同実践してまいります。

私事ではございますが少々お付き合いください。半世紀ほど前のことでございます。進路に迷って、元々土木を目指しておりました私へ、亡き父から「看護師はいいぞ！」と勧められました。そして、時を経て現在に至っております。いま、腹の底から看護師になって良かったと感じる日々でございます。看護を通して多くの患者さんやご家族様と出会いました。多くの別れもございました。多くの若い看護師たちとの出会いもございます。と、同時にやり残したことがあるような気も致しております。生き続ける限り未熟な自分と向き合って学習を重ね、「心の看護(Krankenschwester)」を看護部一同実践してまいります。何卒、宜しくお願い申し上げます。